

専門看護師・認定看護師と協働するには

山崎 住江 (東京女子医科大学八千代医療センター看護局総合母子・小児部)

私は1989年に消化器病センターに配転し、内科病棟・外来・外科病棟と担当しました。その外来には、聖路加国際病院のETスクール(後の日本看護協会認定看護師)を修了した看護師で初期のエキスパートナースがいました。そのエキスパートナースは、病院内で活躍していました。その後何名かの専門看護師・認定看護師と働き、現在は小児救急認定看護師・小児の専門看護師候補生と職場をとんでいます。

その専門看護師は看護系大学院修士課程を修了し、カリキュラムを取得した後決められた6項目の役割を持つ看護師である。また認定看護師は特定の看護分野で経験を積み、熟練した知識・技術を積み、熟練した知識・技術を持ち、高い水準で看護を行なう看護師です。これらの看護師と職場をとにして以下のような経験をしました。

そして、これらの看護師に対して常に思っていることは、がんばっているな一応援したい、存在をみなにアピールしてスタッフにロールモデルとしてお手本になってほしい。患者へよいケアを提供し、部署の看護の質をあげるために協力してほしい。また、看護管理者の私とともにジェネラリストの看護師が、適切な看護ケアが提供できるように、患者のアセスメントができるようにかかわってほしい。その専門看護師・認定看護師と職場で協働するには、私たちが特定の看護分野での能力を把握すること「何をする人なのか」「何をしてくれるのか」ということを十分に理解し接することであると思います。

まとめとして、看護管理者が専門看護師・認定看護師の役割を十分に理解し、リソースとして活用する。専門看護師・認定看護師のスキル・努力を認める。職場内(医療チーム)で専門看護師・認定看護師の役割を周知する。最後に今後の課題として専門看護師・認定看護師に対して「報酬」について考えていく必要があると思います。

専門看護師・認定看護師との協働

1. 消化器病センター外来:ETナース
2. 消化器病センター外科:皮膚・創傷認定看護師
3. 救命救急センター:クリティカルケア専門看護師
救急看護認定看護師
4. 八千代医療センター内科:がん看護専門看護師
5. 八千代医療センター
小児科:小児救急看護認定看護師
専門看護師候補生



一緒に業務をして

1. 救命救急センターで、救急看護認定看護師と働いて、職場の看護師・他部署の看護師に対しBLSを講義・実技等積極的に、指導・訓練できた
2. 小児救急看護認定看護師と働き、認定看護師研修生の実習を受け、認定看護師の役割等スタッフが理解した
3. 専門看護師候補生と働いて、入院している患児・家族の理解が深まり、看護師が積極的に家族への援助ができるようになったのではないかと

